

これまでの各研究会での検討と 今後の二拠点居住の推進について

令和3年2月5日

山梨県

令和2年度中の検討

やまなし自然首都圏構想研究会

ウィズ/ポスト・コロナの時代に対応した、首都と地方の新しい関係性を大きなテーマとし、今後の生活、経済、文化、教育などすべてを変えるNew Normalとして、山梨がどういう価値を提供でき、どう実現するのか研究

自然首都圏構想推進部会

ウィズ/ポスト・コロナの時代における本県のあるべき姿に関する事項について検討

二拠点居住推進部会

本県への二拠点居住の推進に係る具体的な施策に関する事項について検討

山梨県デュアルベースタウン研究会

都市部に拠点をもちながら、豊かな自然のある山梨に住み、働くとともに、必要に応じて都市部のオフィスや会議に行くようなライフスタイルが送れるまちについて研究

ワーケーションワーキンググループ

ワーケーションについて今後取り組むべき施策を具体的に研究

**各研究会で頂いたご意見を総合し、
今後も戦略的に二拠点居住を強力に推進**

やまなし自然首都圏構想研究会における二拠点居住に係る議論

第1回、第2回やまなし自然首都圏研究会（R2.5.20/R2.6.10）で頂いた御意見

- ビジネスを地方に移していくためには、オフサイトミーティングや戦略会議、学会の誘致など、人や情報が集まり、刺激を受けられる環境が必要
- インターネット環境、情報環境、教育環境を整えることで、山梨県が地方に住みたい人々の受け皿となることが可能
- かかりつけ医（プライマリーケア）の導入推進によるオンライン診療の充実といった医療環境等を充実させていくことが必要
- 移住者等に向けた住居の供給体制として、居住可能な空き家を把握し、貸し出す仕組みを考えることが重要 等

第1回二拠点居住推進部会（R2.9.15）で頂いた御意見

- 負担が少なく利用しやすい不動産の用意や移動のコストへの支援が必要
- 子育て世代が一定の期間山梨で暮らすことになった際、子どもが山梨で小中学校に通え、出席日数が合算できるといった教育体制が整備されると良い
- 有名な個人シェフを誘致し、県内に美味しいレストランを増やしていくことが必要
- 個人の移住だけでなく、法人の移住も一つのテーマとして位置付けていくべき
- 移住の相談に来た方から、県内のシェアオフィスやコワーキングスペースの情報をまとめたポータルサイトが欲しいという声がある
- 人の受け入れのために最も問題となるのがコミュニティ。人・情報が集まり、悩みや課題を解決できるコミュニティづくり、またそのコミュニティの核となる人材の育成が必要
- 名古屋、大阪からの人の取り込みも意識していくべき
- ヘリコプターの乗り入れ環境の整備など、ハイエンド層をいかに巻き込んでいくかが重要 等

本県の地域特性の整理

【全域的なもの】

- 首都圏に隣接した立地条件（都心から約90分でアクセス可能で、時間的・費用的負担が少ない。加えてリニア開業による劇的な時間短縮等）
- 豊かな自然環境・アクティビティ（山岳、河川、湖沼、森林等のフィールドが豊富）
- 魅力ある地域資源（食文化、寺社仏閣、特産物等が存在）

【エリア別】

エリア	地域特性	アクセス(新宿から)
峡北	<ul style="list-style-type: none"> • 中央線沿線の高原山麓地域 • ミネラルウォーター出荷額日本一 • 高原野菜や野菜工場 • 別荘やペンション、ホテルが点在するリゾート地 	小淵沢：(鉄道) 約160km、約120分 (車) 約160km、約130分
峡中	<ul style="list-style-type: none"> • 中央線沿線 • リニア中央新幹線の山梨県駅建設予定地 • 山梨の産業、人口の集積地域 • 米倉山を中心とした水素や燃料電池の研究 • ジュエリー産業が集積 • 昇仙峡といった景勝地や武田神社 	甲府：(鉄道) 約120km、約90分 (車) 約120km、約110分
峡東	<ul style="list-style-type: none"> • 中央線沿線の農業景観地域 • ブドウやモモの収穫量日本一 • 日本ワイン生産量日本一 • 県内最大規模の温泉郷石和温泉や西沢渓谷 	塩山：(鉄道) 約110km、約80分 (車) 約110km、約90分
峡南	<ul style="list-style-type: none"> • 身延線沿線 • 中部横断自動車道（下部温泉～静岡市清水区）開通見込み • 東海、中京圏から本県への玄関的な地勢 • 伝統産業（印章、和紙、硯） • 身延山や下部温泉 • アニメの舞台となった地域 	身延：(鉄道) 約170km、約150分 (車) 約160km、約130分
東部	<ul style="list-style-type: none"> • 中央線、中央自動車道沿線 • 中央線快速乗り入れ地でもあり、東京圏のベッドタウン • 東京圏から本県への玄関的な地勢 • 軽登山のメッカ • 猿橋や大菩薩峠 	大月：(鉄道) 約80km、約60分 (車) 約80km、約60分
富士北麓	<ul style="list-style-type: none"> • 富士急行線、中央自動車道、東富士五湖道路沿線 • 富士五湖を中心とした別荘やレジャー施設が集積 • 織物製品などの繊維産業 • 数値制御ロボット出荷額日本一 • 高原野菜や酪農 • 忍野八海や富士五湖 	河口湖：(鉄道) 約100km、約120分 (車) 約100km、約80分

ワーケーションワーキンググループにおける議論①

◆ 推進の趣旨

コロナ禍における新たな観光振興策であるワーケーションは、地方への移住のきっかけともなりうる可能性があることから、二拠点居住に向けた段階的取り組みの一つとして捉え、特に強力に推進。

◆ 推進の考え方

本県の更なる発展のため、あらゆる分野における高付加価値化を図ることが重要となる中で、ワーケーションの実施を通じ、受け入れ側の地域、実施する個人・企業それぞれにおいて新たな価値を創出し、互いにWin-Winの関係を構築していく。



個人	企業	地域・行政
<ul style="list-style-type: none">• WAA (Work from Anywhere Anytime)• 副業・複業• 自律的な働き方 (社内個人事業主)• 越境学習• クリエーティブな環境の確保	<ul style="list-style-type: none">• 働き方改革• テレワークの推進・BCP対策• 健康経営・ウェルネスの促進• 優秀な人材の確保・定着施策• 有給休暇取得促進	<ul style="list-style-type: none">• 交流人口、関係人口の増大• 多拠点居住→移住への導線• 空き家・空きオフィス対策• 地域観光事業者の活性化• 地域住民との交流促進

ワーケーションワーキンググループにおける議論②

◆ 推進のキーワード

✓ 以下のキーワードにより、ワーケーションを推進することが有効ではないかとの意見をいただいた。

「やさしいワーケーション」

首都圏からすぐに来てすぐに帰ることができ、移動コストも低い立地環境や、豊かな自然環境等により、ワーケーションの実施にやさしい本県において、さらなるやさしさを提供するための施策を展開し、特に、ワーケーションを今後新たに実施するワーケーションビギナーなどの取り込みを図る。

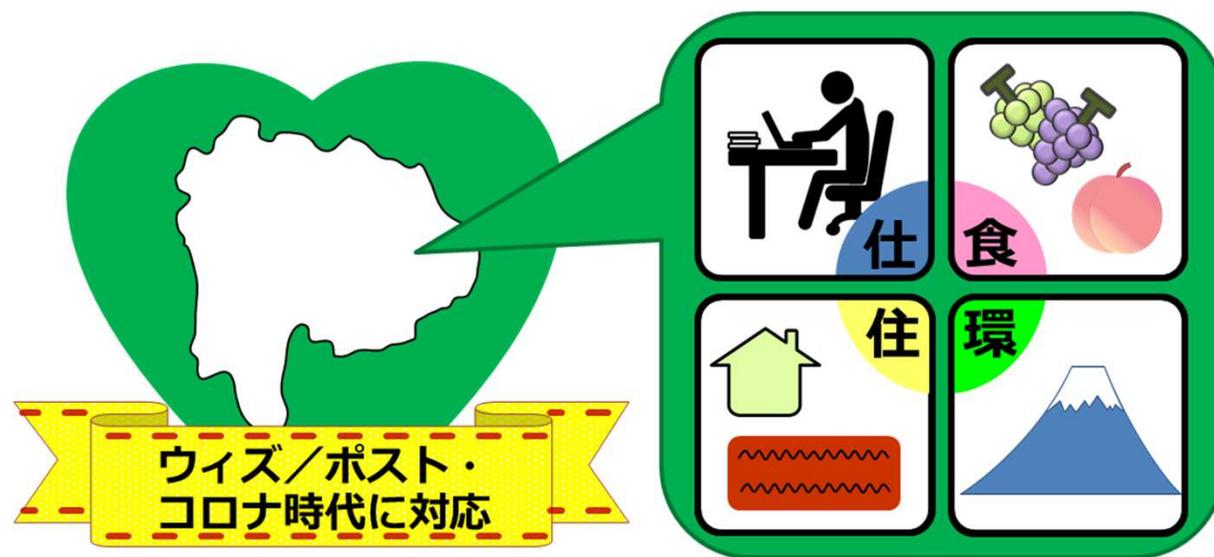
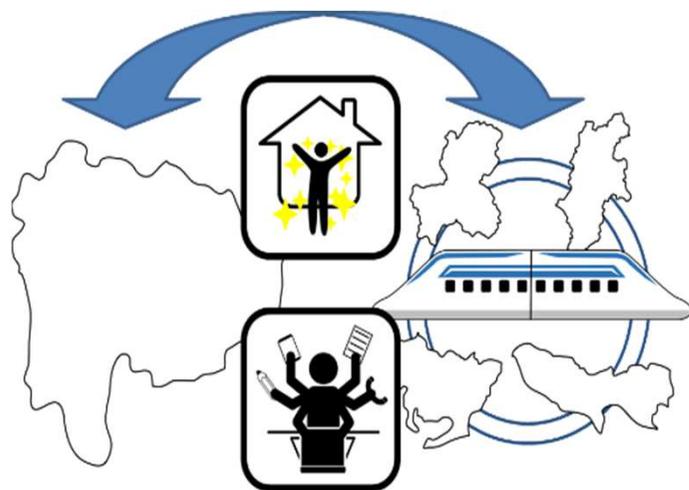
◆ 推進の方向性・具体的取組

✓ 多くの方々に本県をワーケーションの場として選んでいただくとともに、本県にとっての価値・効果を最大化するため、以下の3つの観点から具体的取組について検討。主な意見を以下のとおり整理。

類型	想定される取組み	ポイント・留意点
1 個人単位のワーケーションの促進を通じた将来的な二拠点居住の実現	<ul style="list-style-type: none">・ 良質なワークスペースの提供・ 交通面の負担軽減（MaaSの整備等）・ ワケーション実施者に対するサポート体制の充実・ アクティビティや体験プログラムの提供	<ul style="list-style-type: none">・ ワケーションに同行する家族への配慮も必要・ ワケーションを通じて、地域と深く関わることを望む声が多い
2 企業単位・部署単位のオフサイトミーティング等の誘致を通じた将来的な企業誘致（サテライトオフィス等）	<ul style="list-style-type: none">・ 地域との交流機会の創出・ プロモーションの強化・ 地域全体でワーケーションを受け入れる機運の醸成	<ul style="list-style-type: none">・ 企業側にとってのメリットがわかりづらく、労務管理等がハードルとなり、制度導入が広がっていない可能性
3 新たな観光需要の創出や滞在期間の長期化等による観光産業の収益向上	<ul style="list-style-type: none">・ メリットの可視化・ テレワークに対応した人事管理・人事評価制度の構築支援	<ul style="list-style-type: none">・ 地域内の移動手段の確保が課題・ 地域内を回遊させる仕掛けづくりが必要

◆ デュアルベースタウンの目的

都市部にも拠点をもちながら、豊かな自然のある山梨に住み、働くとともに、必要に応じて都市部のオフィスや会議に行くような、ウィズ/ポスト・コロナの時代に対応できるライフスタイルが送れるまちをつくることにより、二拠点居住・移住に繋げ、人口増加を目指す。



◆ デュアルベースタウンの考え方の整理

デュアルベースタウンを県内全域に波及させ、それぞれの地域の実情に応じた具体的な活性化策に結びつけられるよう、推進するにあたっての意見を次のとおり整理した。

➤ ターゲット

効果的に人を呼び込むため、ターゲットが必要

<想定されるターゲット>

- J R 中央線や中央自動車道・圏央道沿線にある企業や個人
- 水素・燃料電池関連技術など本県の地域資源を活用した企業や個人
- テレワークに積極的な大企業やスタートアップ企業
- 自然環境を生かした就農等希望する集団や個人
- 地域特性と都市部のニーズがマッチする企業や個人

<ポイント・留意点>

- 地域のために何かをする、自分のために何かするという意識を持った人を呼び込む
- 地元に関わりがあり、戻ってきたいという意向がある人を呼び込む
- ターゲットは、地域の意見を聞きながら、コミュニティやマッチングできる環境を作りながら設定することが効果的
- ターゲットとなる都市部の人のニーズ把握と、それに応える受け皿作りといったマーケットの視点が必要

➤ 人材の発掘・育成

地域の魅力を引き出すため、核となる人材の発掘・育成が必要

<想定される手法>

【発掘】

- 地域おこし協力隊OB・OGに対するアプローチ
- 地域内で話題になっている人に対するアプローチ
- ノウハウを持つ企業等からのアプローチ

【育成】

- 研修会等の受講
- 専門家によるアドバイスや実地指導
- ふるさと山梨定住機構からの助言
- 地域との交流機会の確保

<ポイント・留意点>

- 地域で、事業を起こそうとしている地元の若者や、新しい産業にチャレンジする若者を見つける
- 地域に根づいたコア人材の育成が必要
- 受入れる市町村や地域の人と一緒に育てていく、それぞれの悩みを事業の中で解決していく場が必要
- 地域の人と一緒に、プロジェクトマネジメントできる能力を育てる
- 都市側のニーズと地域側のニーズをしっかりとコーディネートできる人材の育成
- 地域や自治体のバックアップが必要

➤ 住みやすい環境・働きやすい環境

人が集まる魅力的な地域にするため、住みやすい環境、働きやすい環境が必要

<想定される方策>

- 【交通】 都心から地域への円滑な移動方法、地域内での移動手段、最寄りの駅もしくはバス停から施設までの移動手段
- 【教育】 区域外就学制度、移住者向けの通信教育制度
- 【医療】 オンライン診療、訪問診療、遠隔健康医療相談、薬の自動配達
- 【仕事】 起業の機会創出、新規事業創出、就農支援
- 【余暇時間の充実】 体験プログラムやアクティビティの充実、地域交流機会の創出

<ポイント・留意点>

- ・ 住む場所も働く場所も駅やインター等から近い、アクセスが良いなどが求められる
- ・ 教育についての環境整備が重要
- ・ 遠隔医療の充実も大事
- ・ 地域における仕事についても、しっかりとした情報や環境の提供が必要
- ・ 住んでみた時の生活面の不安を取り除くことが必要
- ・ 趣味の世界で接点を持てる場や、地域の人達と交流できる場の提供

◆ 効果的な推進方策

➤ ターゲットに対するアプローチ手法

- 県人会や地域にゆかりのある人に対してアプローチ
- 地域関連企業に対してアプローチ
- マッチング企業等による掘り起こし
- 電車で通勤している人に対してアプローチ

➤ ターゲットに対するPRの考え方

- SNSや電波、情報誌等による情報発信
- モニターツアーやお試し移住の実施
- 地域毎にセールスポイントを整理したPR
- 理想の環境を自分たちで実施し、その様子をPR

➤ 誘致に必要な支援

- 移住に伴うコスト（オフィス・社宅等設置費、設備費、交通費）や会社設立経費の支援
- 企業による実証実験の支援
- スタートアップへの支援
- 移住者支援金制度の活用

◆ モデルケースである大月市の取り組み

交通の要衝という地の利を活かし、「物流・人流のハブ機能を持ったゲートウェイシティの確立」をコンセプトに、オフィスと居住スペースを兼ね備えた活動拠点を整備することとなった。

今後、人材の発掘・育成、地域での交流事業、情報発信等について検討する予定である。

二拠点居住推進の全体像

◆ 二拠点居住の推進について、“まち” “ひと” “しかけ” の3つの視点から取り組みを整理し、次年度以降積極的に各施策を実施（社会情勢等を鑑みながら、適宜施策の見直し・追加等を図る）

STEP1

興味・関心



- 地方にも拠点をもちたいけど、どこかいいところはないかなあ
- 山梨ってどんなところ？
- 行政からの支援は何かあるの？

STEP2

訪問・滞在



- ワークेशनを活用して山梨で仕事をしてみよう
- お試しで二拠点居住・移住をしてみよう

STEP3

二拠点居住・移住



- 山梨にも生活・仕事の拠点を確保したい
- サテライトオフィスを整備したい

各段階において求められる情報の一元的な提供、サポート・フォローアップ体制の充実
 (新たなポータルサイトの構築、首都圏における窓口機能、県内での相談体制の強化)

各メディアを通じた積極的なプロモーション活動の展開

企業等とのマッチングの機会創出
 (ニーズ調査、セミナー・イベント開催)

ワークスペースの充実

(サテライトオフィスやコワーキングスペース、宿泊施設のワークスペースの整備促進)

二次交通の充実 (公共交通の利便性向上、MaaSの整備)

住宅の確保・供給 (空き家の活用の促進)

文化芸術や食による地域の魅力の向上

ワーケーション導入推進のための地域人材の育成

生活環境の向上

地域のコミュニティの核となる人材の育成

地域で移住者等を温かく迎え入れる体制の構築

県内での起業や実証実験の実施に係るサポート体制の構築、経費の支援

移動・滞在等に要する経費の支援

オフィス・社宅整備等に要する経費の支援

農業体験の場や地域との交流の機会の創出

：“まち”の取り組み

：“ひと”の取り組み

：“しかけ”の取り組み